

教科	家庭	年度	平成31年度
科目名	家庭基礎	学科学年	普通科 1 年
		履修単位	2単位

1. 学習の到達目標

家庭科の学習は、人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身につけさせることを目標としている。

2. 教科書・副教材等

教科書	家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍）
ワークブック	家庭基礎 学習ノート（東京書籍）
資料集他	Super Live View 家庭科 資料＋食品成分表（東京書籍） クッキングカード 家庭基礎編（新潟県家庭科研究会） F H J ガイド&ワークブック（全国高等学校家庭クラブ連盟）

3. 学習する上での留意点

学習する上で大切なことは、単なる知識の習得に留まらず、学習した内容を毎日の生活に活かすことである。家庭基礎の学習は今年1年間であるが、学んだ知識は誰もが一生関わるものである。自分自身の生活実践につながるよう学習する。

1) 知識と技術を総合的に習得し、具体的、实际的に学習する。

授業を大切にし、要点をノートやプリントにまとめ、授業時間内に理解しよう。

学んだ知識を実験・実習などで自ら体験することはとても大切なことです。積極的に参加し、学習の楽しさや成就感を味わおう。

2) 学習した内容を生活の場に活かすようにしよう。

授業で学んだことは、各自の家庭生活に活用して、生活を科学的・合理的にするとともに、豊かで潤いのある生活になるように努めよう。

家庭を取り巻く環境にも目をむけ、学習で得た力を、家族や地域の人々のためにも生かすように努めよう。

3) 生活に対して課題意識を持ち、問題解決能力を身に付けよう。

効果的に学習する為に新聞記事等の情報を収集し、自ら生活課題を認識しよう。

毎日の生活において学習した知識を生かして常に問題意識を持ち、課題を見つけ、解決のため計画を立て実践し、その結果を反省し、総合的に評価し生活に役立てよう。

4) 「家庭基礎」を学んで、家庭科の内容に興味・関心を持った人や、家政・生活科学系統の学部・学科に進学を希望する人は、家庭科の先生に相談しアドバイスを受ける
とよい。

4. 評価

中間・期末考査の評価のみではなく、ホームプロジェクトや、調理および被服などの実験・実習学習も含め総合的に評価する。

【評価の観点】

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

5. 担当者からの一言

人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得して、家庭生活の充実向上を図ろう。

期	月	学習内容	時数	学習のねらい	考查
一 学 期	4	ホームプロジェクトおよび学校家庭クラブ活動 第5章 食生活をつくる ①食生活の課題について考える ②食事と栄養・食品	24	家庭クラブ活動の意義を理解する。 家族の食生活を健康で安全に営む力をつけ、よりよい食習慣を身につける。	期 末 考 査
	5	③食生活の安全と衛生 ④生涯の健康を見通した食事計画 ⑤調理の基礎 ⑥これからの食生活			
	6	◎調理実習① 第6章 衣生活をつくる ①被服の役割を考える ②被服を入手する ◎被服実習		実習を通して調理に関する知識や技術を身につける。 被服に関する知識を身につけ、快適な衣生活を営む力を育む。 基本的な製作技術を身につける。	
	7	③被服を管理する ④これからの衣生活 ◎調理実習②			
	8	◎ホームプロジェクト		自分や家族の生活課題を見つけ、解決方法を考え実践する。	
二 学 期	9	◎ホームプロジェクト発表会 第2章 子どもと共に育つ ①子どもの育つ力を知る ②親として共に育つ ③子どもとの触れ合いから学ぶ ④これからの保育環境 ◎保育実習	14	各自のホームプロジェクトを発表する。 子どもの特徴、発達を理解し、親や家族及び社会の果たす役割が重要であることを理解する。	中 間 考 査
	10	第1章 自分らしい人生をつくる ①生涯発達の視点 ②青年期の課題 ③目標を持って生きる ④人生をつくる ⑤家族・家庭を見つめる ⑥これからの家庭生活と社会 ◎調理実習③	12	家庭を築くことの意義と、家庭や家庭生活のあり方について考える。 家族や社会の果たす福祉の役割の重要性を考える。	
	11	第3章 高齢社会を生きる ①高齢期を理解する ②高齢者の心身の特徴 ③これからの高齢社会 ◎調理実習④			
	12				
三 学 期	1	第4章 共に生き、共に支える ①私たちの生活と福祉 ②社会保障の考え方 ③共に生きる 第8章 経済生活を営む ①職業生活を設計する ②計画的に使う	14	生活と資源・環境とのかかわりについて考え、環境負荷の少ない生活、環境に調和した生活を工夫できる。 家庭経済や消費生活に関する基礎的な知識を学び、消費者として責任を持って行動できる力をつける。	学 年 末 考 査
	2	③国民経済・国際経済と家庭の経済生活 ④現代の消費社会 ⑤消費者の権利と責任 ⑥これからの消費生活と環境			
	3	第7章 住生活をつくる ①住生活について考える ②住生活の計画と選択 ③これからの住生活 ◎福祉実習 ◎調理実習⑤		住居や住環境に関する知識や技術を身につけ、充実した住生活を営むことができる。 バーステークカード等の作成を通して、高齢者の心身の特徴や関わりを理解する。	
64 (55分授業)					

教科	家庭	年度	平成31年度
科目名	家庭基礎	学科学年	普通科学究コース 1年
		履修単位	2単位

1. 学習の到達目標

家庭科の学習は、人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身につけさせることを目標としている。

2. 教科書・副教材等

教科書	家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍）
ワークブック	家庭基礎 学習ノート（東京書籍）
資料集他	Super Live View 家庭科 資料＋食品成分表（東京書籍）
	クッキングカード 家庭基礎編（新潟県家庭科研究会）
	F H J ガイド&ワークブック（全国高等学校家庭クラブ連盟）

3. 学習する上での留意点

学習する上で大切なことは、単なる知識の習得に留まらず、学習した内容を毎日の生活に活かすことである。家庭基礎の学習は今年1年間であるが、学んだ知識は誰もが一生関わるものである。自分自身の生活実践につながるよう学習する。

1) 知識と技術を総合的に習得し、具体的、実的に学習する。

授業を大切にし、要点をノートやプリントにまとめ、授業時間内に理解しよう。

学んだ知識を実験・実習などで自ら体験することはとても大切なことです。積極的に参加し、学習の楽しさや成就感を味わおう。

2) 学習した内容を生活の場に活かすようにしよう。

授業で学んだことは、各自の家庭生活に活用して、生活を科学的・合理的にするとともに、豊かで潤いのある生活になるように努めよう。

家庭を取り巻く環境にも目をむけ、学習で得た力を、家族や地域の人々のためにも生かすように努めよう。

3) 生活に対して課題意識を持ち、問題解決能力を身に付けよう。

効果的に学習する為に新聞記事等の情報を収集し、自ら生活課題を認識しよう。

毎日の生活において学習した知識を生かして常に問題意識を持ち、課題を見つけ、解決のため計画を立て実践し、その結果を反省し、総合的に評価し生活に役立てよう。

4) 「家庭基礎」を学んで、家庭科の内容に興味・関心を持った人や、家政・生活科学系統の学部・学科に進学を希望する人は、家庭科の先生に相談しアドバイスを受ける
とよい。

4. 評価

中間・期末考査の評価のみではなく、ホームプロジェクトや、調理および被服などの実験・実習学習も含め総合的に評価する。

【評価の観点】

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

5. 担当者からの一言

人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得して、家庭生活の充実向上を図ろう。

期	月	学習内容	時数	学習のねらい	考查
一 学 期	4	ホームプロジェクトおよび学校家庭クラブ活動 第5章 食生活をつくる ①食生活の課題について考える ②食事と栄養・食品	24	家庭クラブ活動の意義を理解する。 家族の食生活を健康で安全に営む力をつけ、よりよい食習慣を身につける。	期 末 考 査
	5	③食生活の安全と衛生 ④生涯の健康を見通した食事計画 ⑤調理の基礎 ⑥これからの食生活			
	6	◎調理実習① 第6章 衣生活をつくる ①被服の役割を考える ②被服を入手する ◎被服実習		実習を通して調理に関する知識や技術を身につける。 被服に関する知識を身につけ、快適な衣生活を営む力を育む。 基本的な製作技術を身につける。	
	7	③被服を管理する ④これからの衣生活 ◎調理実習②			
	8	◎ホームプロジェクト		自分や家族の生活課題を見つけ、解決方法を考え実践する。	
二 学 期	9	◎ホームプロジェクト発表会 第2章 子どもと共に育つ ①子どもの育つ力を知る ②親として共に育つ ③子どもとの触れ合いから学ぶ ④これからの保育環境 ◎保育実習	14	各自のホームプロジェクトを発表する。 子どもの特徴、発達を理解し、親や家族及び社会の果たす役割が重要であることを理解する。	中 間 考 査
	10	第1章 自分らしい人生をつくる ①生涯発達の視点 ②青年期の課題 ③目標を持って生きる ④人生をつくる ⑤家族・家庭を見つめる ⑥これからの家庭生活と社会 ◎調理実習③	12	家庭を築くことの意義と、家庭や家庭生活のあり方について考える。 家族や社会の果たす福祉の役割の重要性を考える。	
	11	第3章 高齢社会を生きる ①高齢期を理解する ②高齢者の心身の特徴 ③これからの高齢社会 ◎調理実習④			
	12				
三 学 期	1	第4章 共に生き、共に支える ①私たちの生活と福祉 ②社会保障の考え方 ③共に生きる 第8章 経済生活を営む ①職業生活を設計する ②計画的に使う	14	生活と資源・環境とのかかわりについて考え、環境負荷の少ない生活、環境に調和した生活を工夫できる。 家庭経済や消費生活に関する基礎的な知識を学び、消費者として責任を持って行動できる力をつける。	学 年 末 考 査
	2	③国民経済・国際経済と家庭の経済生活 ④現代の消費社会 ⑤消費者の権利と責任 ⑥これからの消費生活と環境			
	3	第7章 住生活をつくる ①住生活について考える ②住生活の計画と選択 ③これからの住生活 ◎福祉実習 ◎調理実習⑤		住居や住環境に関する知識や技術を身につけ、充実した住生活を営むことができる。 バーステークード等の作成を通して、高齢者の心身の特徴や関わりを理解する。	
64 (55分授業)					

教科	家庭	年度	平成31年度
科目名	家庭総合	学科学年	食物科 1年
		履修単位	4単位

1. 学習の到達目標

家庭科の学習は、人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する知識と技術を総合的に習得させ、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身につけさせることを目標としている。

2. 教科書・副教材等

教科書	家庭総合 自立・共生・創造 (東京書籍)
ワークブック	家庭総合学習ノート 自立・共生・創造 (東京書籍)
資料集他	Super Live View 家庭科 資料+食品成分表 (東京書籍) クッキングカード 家庭総合編 (新潟県家庭科研究会) F H J ガイドブック (全国高等学校家庭クラブ連盟)

3. 学習する上での留意点

学習する上で大切なことは、単なる知識の習得に留まらず、学習した内容を毎日の生活に活かすことである。家庭総合の学習は今年1年間であるが、学んだ知識は誰もが一生関わるものである。自分自身の生活実践につながるよう学習する。

1) 知識と技術を総合的に習得し、具体的、实际的に学習す

授業を大切にし、要点をノートやプリントにまとめ、授業時間内に理解しよう。

学んだ知識を実験・実習などで自ら体験することはとても大切なことです。積極的に参加し、学習の楽しさや成就感を味わおう。

2) 学習した内容を生活の場に活かすようにしよう。

授業で学んだことは、各自の家庭生活に活用して、生活を科学的・合理的にするとともに、豊かで潤いのある生活になるように努めよう。

家庭を取り巻く環境にも目をむけ、学習で得た力を、家族や地域の人々のためにも生かすように努めよう。

3) 生活に対して課題意識を持ち、問題解決能力を身に付けよう。

効果的に学習する為に新聞記事等の情報を収集し、自ら生活課題を認識しよう。

毎日の生活において学習した知識を生かして常に問題意識を持ち、課題を見つけ、解決のため計画を立て実践し、その結果を反省し、総合的に評価し生活に役立てよう。

4) 「家庭総合」を学んで、家庭科の内容に興味・関心を持った人や、家政・生活系統の学部・学科に進学を希望する人は、家庭科の先生に相談しアドバイスを受けることよい。

4. 評価について

中間・期末考査の評価のみではなく、ホームプロジェクトや、食物・被服および保育などの実験・実習学習も含め、総合的に評価する。

【評価の観点】

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
人の一生、家族・家庭、子供や高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住について関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	人の一生、家族・家庭、子供や高齢者との関わりと福祉、衣食住などについて生活の充実向上を図るための課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	人の一生、家族・家庭、子供や高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する技術を総合的に身に付けている。	人の一生、家族・家庭、子供や高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する総合的に身に付けている。

5. 担当者からの一言

人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得して、家庭生活の充実向上を図ろう。

期	月	学習内容	時数	学習のねらい	考查
一 学 期	4	ホームプロジェクトおよび学校家庭クラブ活動	1	家庭クラブ活動の意義を理解する。	中間 考查
		1. 食生活の課題について考える 2. 食事と栄養・食品 3. 食生活の安全と衛生 4. 生涯の健康を見通した食事計画 5. 調理の基礎 6. 食生活の文化と知恵 7. これからの食生活	28	家族の食生活を健康で安全に営む力をつける。	
	5	1. 生涯発達の視点 2. 青年期の課題 3. 目標を持って生きる 4. 人生をつくる 5. 家族・家庭を見つめる 6. これからの家庭生活と社会	11	家庭を築くことの意義と、家庭や家庭生活のあり方について考える。	期末 考查
	6	1. 被服の役割を考える 2. 被服を手入れする 3. 被服を管理する 4. 衣生活の文化と知恵 5. これからの衣生活	11	被服に関する知識を身につける。	
	7	◎ホームプロジェクト	1	自分や家族の生活課題を見つけ、解決方法を考え実践する。	
	8	◎ホームプロジェクト発表会	2	各自のホームプロジェクトを発表する。	
二 学 期	9	◎被服実習	9	基本的な製作技術を身につける。	中間 考查
		1. 命をはぐくむ 2. 子どもの育つ力を知る 3. 親として共に育つ 4. 子どもとの触れ合いから学ぶ 5. これからの保育環境	25	子どもの特徴、発達を理解し、親や家族及び社会の果たす役割が重要であることを理解する。	
	10	1. 高齢者を理解する 2. 高齢者の心身の特徴 3. 高齢者を支える 4. これからの高齢者社会	14	高齢者の心身の特徴を理解し、高齢者の生活を支えるために家族や社会の果たす役割の重要性を考える。	期末 考查
	11	◎福祉体験実習	2	アイマスク体験を通して、高齢者の心身の特徴や関わりを理解する。	
三 学 期	1	1. 職業生活を設計する 2. 計画的に使う 3. 国民経済・国際経済と家庭の経済生活 4. 現代の消費社会 5. 消費者の権利と責任 6. これからの消費生活と環境	12	家庭経済や消費生活に関する基礎的な知識を学び、消費者として責任を持って行動できる力をつける。契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解する。	学年 末 考 査
		1. 住生活について考える 2. 住生活の設計と選択 3. 住生活の文化と知恵 4. これからの住生活	8	住居や住環境に関する知識や技術を身につけ、充実した住生活を営むことができる。	
	2	1. 私たちの生活と福祉 2. 社会保障の考え方 3. 共に生きる	3	生活と資源・環境とのかかわりについて考え、環境負荷の少ない生活、環境に調和した生活を工夫できる。	
	3	◎家庭クラブ活動	1	バースデーカード等の作成を通して、家庭クラブ活動や福祉について理解を深める。	
年間時数計			128	(55分授業)	

教科	家庭	年度	平成31年度
科目名	生活産業基礎	学科 学年	食物科 1年
		履修単位	2単位

1. 学習の到達目標

・生活と産業とのかかわりについて理解させ、生活に関連する職業などへの関心を高めるとともに、必要な知識と技術を進んで習得しようとする意欲と態度を育てる。

2. 準教科書・副教材等

準教科書

『生活産業基礎』実教出版

副教材・資料集他

『4 調理理論と食文化概論』

公益財団法人 全国調理師養成施設協会

『5 調理実習』

公益財団法人 全国調理師養成施設協会

『6 総合調理実習』

公益財団法人 全国調理師養成施設協会

『調理実習レシピ』

公益財団法人 全国調理師養成施設協会

『Super Live View 家庭科 資料+食品成分表』東京書籍

「家庭科問題集 基礎編(衣生活・食生活)」

公益財団法人 全国高等学校家庭科教育振興会

3. 学習する上での留意点

・家庭生活と産業とのかかわりを理解するためにさまざまな調査を行うなど、意欲的に取り組むこと。

・食生活分野に関連する産業や職業を中心に学び、各自の進路について意識を深めること。

4. 評価について

評価の観点・趣旨			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・生活と産業とのかかわりについて理解し、生活に関連する職業などへの関心を持ち、それらの職業に必要な知識と技術を進んで身につけようとしている。	・専門科目の学習と職業生活とのかかわりや、職業における職業資格の意義について思考を深めて、自分の考えをまとめ、判断し表現できる。	・生活と産業とのかかわりについて理解し、産業の各分野で、スペシャリストとして必要な専門の基礎的・基本的な技術を身につけている。また、職業資格の取得や将来のスペシャリストを目指した学習プランを立てることができる。	・生活と産業とのかかわりについて理解し、産業の各分野で、スペシャリストとして必要な専門の基礎的・基本的な知識を身につけている。

5. 担当者からの一言

生活と産業とのかかわりについて理解し、卒業後の進路についての意識を深めよう。

期	月	学習内容	時数	学習のねらい	考查	
一 学 期	4	1 「生活産業基礎」を学ぶに当たって ・「生活産業」を学ぶ目的 ・「生活産業」のスペシャリストへの道	24	・生活と産業とのかかわりを理解し、専門科目の学習がスペシャリストとしての職業にどのように結びついていくのか理解を深める。	発表や作品提出を 考查とし、 各学期毎に 実施する。	
	5	2 社会の変化と生活産業 ・生活産業とのかかわり ・社会の変化とライフスタイルの変化 ・産業構造の変化と生活産業の発展 「調理の衛生の基本学習」		・各自の生活と産業の関わりを調べ、社会の産業構造の変化と生活産業の発展との関連を理解する。		
	6	「行事食と郷土料理について」 「笹団子実習」「寿司実習」		・郷土料理や行事食（節句）と関連を理解し、季節との関連を表現する。		
	7	・生活産業にかかわる創造力・コミュニケーション能力の学習		・行事食や郷土料理についてポスターを作成し、プレゼンする。		
	8			・ヒューマンサービスにかかわる生活産業である「保育」に関する造形表現技術を習得する。		
	二 学 期	9		「食物に関する基礎的な調理技術の学習」 3 生活産業と職業		26
10		・食生活の変化と生活産業のかかわり (1) わが国の食生活の変化 (2) 現代の食生活とその課題 食生活と加工食品調査	・食生活の変化と生活産業の関わりについて理解する ・各自の生活と加工食品産業とのかかわりを調べ、食の洋風化や自給率の低下等を理解する。			
11		・食生活関連分野の産業と職業 ・食品製造業における調理師の働き	・食肉加工食品製造実習を行い、食生活関連産業の職業を理解するとともに、食品の扱い方を習得する。			
12		「食肉加工実習」 「米・米粉実習」	・「米」について実習を行い、郷土の特産物や日本型食生活について理解する。			
		「味噌造り実習」	・伝統的保存食品である味噌造り実習を行い、食生活関連産業の職業を理解するとともに、食品の扱い方を習得する。			
三 学 期	1	「食事環境を整える」 (3) 食生活分野の産業と職業	14	・供応食におけるテーブルコーディネートやメニューカードを作成し、食事環境を整える技術を習得する		
	2	・職業生活と自己実現 ・食品製造業における調理師の働き ・食生活関連分野の産業と職業		・食生活産業の職業と資格をグループ学習しプレゼンする。・社会人から講話を受け、職業について理解を深める。		
	3	「管理栄養士等 卒業生講話」		・管理栄養士等、卒業生の方から講義を受け、施設における給食実習の実際について理解すると共に、将来に職業について考察する。		
合計		64時間（55分授業）				

教科	家庭	年度	平成31年度
科目名	課題研究	学科学年	食物科 3年
		履修単位	2単位

1. 学習の到達目標

食生活に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。

2. 教科書・副教材等

副教材等 『5 調理実習』 全国調理師養成施設協会
『調理実習レシピ集』 全国調理師養成施設協会
『FHJ GUIDE BOOK』 全国高等学校家庭クラブ連盟
各自の研究に関する書籍2冊

3. 学習する上での留意点

- ・主体的に課題を設定し課題の解決を目指して調査、研究、実験などを行い、幅広い学習をします。
- ・課題解決を図る学習活動を通して、今までに身に付けた食に関する知識と技術の定着を図り、実際の場面に応用発展できる転移性のある知識と技術になるよう意欲的に学習しましょう。

4. 評価について

- ・授業の取り組み(授業態度、学習活動への参加状況など)、提出物の内容、研究の内容、研究冊子などから総合的に評価します。

【評価の観点】

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
食生活に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を身に付けようとしている。	食生活に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、問題解決の方策について思考を深めて、自分の考えをまとめ、判断できる。	課題解決を図る学習活動を通して、家庭に関する各科目の学習で身に付けた専門的な技術の定着を図るとともに、実際の場面に応用発展できる転移性のある技術を身に付けている。	課題解決を図る学習活動を通して、家庭に関する各科目の学習で身に付けた専門的な知識の定着を図るとともに、実際の場面に応用発展できる転移性のある知識を身に付けている。

5. 担当者からの一言

社会の変化に対応できるように、各自の研究を通して、問題解決能力や創造力を高めていこう。

期	月	学習内容	時数	学習のねらい	考査
一 学 期	4	授業内容の説明 「課題研究」を学ぶ目的 課題解決学習	25	授業内容を理解する。 ・「課題研究」を学ぶ目的を理解する ・調査・実験・研究を年間を通して学習する。	
	5				
	6	食物調理検定1級内容に準じた ライフステージ別供応食の学習		・ライフステージ別供応食について理解し その技術を身に付ける。	
	7	福祉活動		・雑巾を製作し、地域の保育所に寄付する。	
	8	中間自己評価・中間発表会		・中間自己評価と研究内容を発表することにより、目的意識を再度確認する。	
二 学 期	9	実施計画の再検討	24	・計画を見直し、学習内容をさらに発展させる。	
	10				
	11	福祉活動		・バースデーカードを制作し、高齢者福祉施設入居者の方へ寄付する。	
	12	発表準備		・発表抄録原稿の作成と効果的にプレゼンテーションできるよう準備する。	
三 学 期	1	課題研究報告書の作成・提出 自己評価表・課題研究発表会	15	・課題解決学習のまとめとして、研究冊子製作する。 ・研究発表会を行い学習の成果を確認する。	
	2	↓ 掲示物作成・製作		・研究内容をまとめたものを廊下にはり出し、多くの人に講評をいただく。	
	3				
年間時数計			64	(55分授業)	

教科	家庭	年度	平成31年度
科目名	家庭基礎	学科学年	音楽科 1年
		履修単位	2単位

1. 学習の到達目標

家庭科の学習は、人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身につけさせることを目標としている。

2. 教科書・副教材等

教科書	家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍）
ワークブック	家庭基礎 学習ノート（東京書籍）
資料集他	Super Live View 家庭科 資料＋食品成分表（東京書籍） クッキングカード 家庭基礎編（新潟県家庭科研究会） F H J ガイド&ワークブック（全国高等学校家庭クラブ連盟）

3. 学習する上での留意点

学習する上で大切なことは、単なる知識の習得に留まらず、学習した内容を毎日の生活に活かすことである。家庭基礎の学習は今年1年間であるが、学んだ知識は誰もが一生関わるものである。自分自身の生活実践につながるよう学習する。

1) 知識と技術を総合的に習得し、具体的、实际的に学習する。

授業を大切にし、要点をノートやプリントにまとめ、授業時間内に理解しよう。

学んだ知識を実験・実習などで自ら体験することはとても大切なことです。積極的に参加し、学習の楽しさや成就感を味わおう。

2) 学習した内容を生活の場に活かすようにしよう。

授業で学んだことは、各自の家庭生活に活用して、生活を科学的・合理的にするとともに、豊かで潤いのある生活になるように努めよう。

家庭を取り巻く環境にも目をむけ、学習で得た力を、家族や地域の人々のためにも生かすように努めよう。

3) 生活に対して課題意識を持ち、問題解決能力を身に付けよう。

効果的に学習する為に新聞記事等の情報を収集し、自ら生活課題を認識しよう。

毎日の生活において学習した知識を生かして常に問題意識を持ち、課題を見つけ、解決のため計画を立て実践し、その結果を反省し、総合的に評価し生活に役立てよう。

4) 「家庭基礎」を学んで、家庭科の内容に興味・関心を持った人や、家政・生活科学系統の学部・学科に進学を希望する人は、家庭科の先生に相談しアドバイスを受ける
とよい。

4. 評価

中間・期末考査の評価のみではなく、ホームプロジェクトや、調理および被服などの実験・実習学習も含め総合的に評価する。

【評価の観点】

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などについて課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

5. 担当者からの一言

人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得して、家庭生活の充実向上を図ろう。

期	月	学習内容	時数	学習のねらい	考查
一 学 期	4	ホームプロジェクトおよび学校家庭クラブ活動 第5章 食生活をつくる ①食生活の課題について考える ②食事と栄養・食品	24	家庭クラブ活動の意義を理解する。 家族の食生活を健康で安全に営む力をつけ、よりよい食習慣を身につける。	期 末 考 査
	5	③食生活の安全と衛生 ④生涯の健康を見通した食事計画 ⑤調理の基礎 ⑥これからの食生活			
	6	◎調理実習① 第6章 衣生活をつくる ①被服の役割を考える ②被服を入手する ◎被服実習		実習を通して調理に関する知識や技術を身につける。 被服に関する知識を身につけ、快適な衣生活を営む力を育む。 基本的な製作技術を身につける。	
	7	③被服を管理する ④これからの衣生活 ◎調理実習②			
二 学 期	8	◎ホームプロジェクト		自分や家族の生活課題を見つけ、解決方法を考え実践する。	中 間 考 査
	9	◎ホームプロジェクト発表会 第2章 子どもと共に育つ ①子どもの育つ力を知る ②親として共に育つ ③子どもとの触れ合いから学ぶ ④これからの保育環境 ◎保育実習	14	各自のホームプロジェクトを発表する。 子どもの特徴、発達を理解し、親や家族及び社会の果たす役割が重要であることを理解する。	
	10	第1章 自分らしい人生をつくる ①生涯発達の視点 ②青年期の課題 ③目標を持って生きる ④人生をつくる ⑤家族・家庭を見つめる ⑥これからの家庭生活と社会 ◎調理実習③	12	家庭を築くことの意義と、家庭や家庭生活のあり方について考える。 家族や社会の果たす福祉の役割の重要性を考える。	
	11	第3章 高齢社会を生きる ①高齢期を理解する ②高齢者の心身の特徴 ③これからの高齢社会 ◎調理実習④		高齢者の心身の特徴を理解し、高齢者の生活を支えるために家族や社会の果たす役割の重要性を考える。	期 末 考 査
三 学 期	12				
	1	第4章 共に生き、共に支える ①私たちの生活と福祉 ②社会保障の考え方 ③共に生きる 第8章 経済生活を営む ①職業生活を設計する ②計画的に使う	14	生活と資源・環境とのかかわりについて考え、環境負荷の少ない生活、環境に調和した生活を工夫できる。	学 年 末 考 査
	2	③国民経済・国際経済と家庭の経済生活 ④現代の消費社会 ⑤消費者の権利と責任 ⑥これからの消費生活と環境		家庭経済や消費生活に関する基礎的な知識を学び、消費者として責任を持って行動できる力をつける。契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解する。	
	3	第7章 住生活をつくる ①住生活について考える ②住生活の計画と選択 ③これからの住生活 ◎福祉実習 ◎調理実習⑤		住居や住環境に関する知識や技術を身につけ、充実した住生活を営むことができる。 バーステークカード等の作成を通して、高齢者の心身の特徴や関わりを理解する。	